

# 旧: attribute-filter.xml ファイルの変更 (IdPv3)

## attribute-filter.xml ファイルの変更

### 0. 事前準備

デフォルトの /opt/shibboleth-idp/conf/attribute-filter.xml を[テンプレート](#)で差し替え、下記にしたがい修正してください。

テンプレートは運用フェデレーション用とテストフェデレーション用の2種類がありますので、ご注意ください。

### 1. 送信設定の部分を、以下の例に従い有効にします。

各SPに対応した送信設定の方法は[ここ](#)から各SPのIdP管理者向けページを参照下さい。

 Shibboleth IdPバージョン2時代の書式は現在の書式とかなり異なりますが、学認のテンプレートは2つの書式を混在させても問題ありません。

(1) Elsevier ScienceDirectおよびScopusへの属性送信を有効とする例（運用フェデレーション用テンプレート）：

```
<!-- Policy for ScienceDirect and Scopus -->
<!-- --> ← コメント終了を追加して、以下を有効とします
<AttributeFilterPolicy id="PolicyforScienceDirectScopus">
  <PolicyRequirementRule xsi:type="Requester" value="https://sdatauth.sciencedirect.com/" />

  <AttributeRule attributeID="eduPersonEntitlement">
    <PermitValueRule xsi:type="Value" value="urn:mace:dir:entitlement:common-lib-terms" />
  </AttributeRule>
</AttributeFilterPolicy>
<!-- --> ← コメント開始を追加して、上記を有効とします
```

(2) test-sp1への属性送信を有効とする例（テストフェデレーション用テンプレート）：

```
<!-- Policy for test-sp1 -->
<!-- --> ← コメント終了を追加して、以下を有効とします
<AttributeFilterPolicy id="PolicyforGakuNinTestSP1">
  <PolicyRequirementRule xsi:type="Requester" value="https://test-sp1.gakunin.nii.ac.jp/shibboleth-sp" />

  <AttributeRule attributeID="eduPersonPrincipalName">
    <PermitValueRule xsi:type="ANY" />
  </AttributeRule>

  (略)

  <AttributeRule attributeID="isMemberOf">
    <PermitValueRule xsi:type="ANY" />
  </AttributeRule>
</AttributeFilterPolicy>
<!-- --> ← コメント開始を追加して、上記を有効とします
```

[← BACK](#)[↑ TOP](#)[NEXT →](#)